

F-39 栄養家計簿における標準食費の算定について  
女子栄養大 香川綾 小林淑子 ○川村玲子

目的 家族の栄養を満たし(栄養所要量の充足)で、健康的な食事を確保することも目的とし、あわせて食事の変化と嗜好の満足なども考慮した合理的な食費を算出し、実生活の適用に資することを目的とする。

方法 I年令別 性別 妊娠 授乳期及び労作別の栄養所要量(昭和44年8月、栄養審議会発表)にもとづいて食品構成(四つの食品群による)をたてる。①それぞれの食品価格を、小売物価統計(総理府)、家計調査報告(総理府)の資料により、100円単価を算出し、食品群別に必要な価格を算出する。②栄養家計簿モニターの報告より、食品群別の購入量(正味重量)と購入価格より、群別必要価格を算出する。①と②の結果を検討し、食品構成にもとづいた成人男子(軽い労作)の1人1日当りに必要な食品購入費用を算出、それに調味料及び自由選択の費用を加算し、標準食費とする。II次年度の標準食費の推定にあたっては、消費者物価指数(総理府)及び栄養家計簿モニターの年次上昇率を参考にする。III家族の食費は、前記の食品構成に合わせて、それぞれの費用を算出し、標準食費(成人男子軽い労作)を1として、それぞれの指数を出し、これを用いて、家族の食費を算出する。

結果 栄養家計簿をつけつづけたモニターの結果によれば、昭和47年の標準食費は350円と指標したか、平均は357円で、同時に栄養摂取量も指標に近く、かなり変化ある献立が作られている。群別の費用が指標よりかなり差異がある時は、栄養摂取状況にもアンバランスがみられる。